旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想策定の状況について

東川町では、旧東川駅跡の再整備に向けた基本構想の検討を進めています。
本ページでは、これまでの検討の経過と、現在の考え方、今後の進め方についてお知らせします。

１．このプロジェクトの考え方
本プロジェクトは、単なる施設整備ではなく、「東川の魅力に触れ、学び、人とつながりながら、豊かな暮らしを育む拠点づくり」を目的としています。また、施設単体で完結するのではなく、町内にある既存の公共施設や自然・産業・文化と連携し、「町全体がデザインミュージアム」として、町全体の価値を高めていくことを目指すものであり、新たな施設整備そのものを目的とするものではありません。
本プロジェクトは、人口減少や地域課題の変化に対応し、将来にわたり持続可能なまちづくりを進めるための取組として位置づけています。

２．これまでの検討の進め方
本プロジェクトは、「対話と参加によるまちづくり」を基本として進めてきました。
これまでに、懇談会（第１回～第５回）、住民説明会・タウンミーティング、有識者会議、 先進地視察（東京・上士幌）、設計者による提案（隈研吾氏・田根剛氏）などを通じて、多様な視点から検討を重ねています。

こうしたプロセスを通じて、単なる建物ではなく、どのように使われるか、どのように運営するか、町にどんな価値を生むかまで含めて検討を進めています。

３．基本構想の骨子（現時点）
以下は現時点での検討内容であり、今後の議論や設計により変更となる可能性があります。
（1）施設の役割
旧東川駅跡は、町の文化を深める場、人が集い、活動する場、新しい価値を生み出す場として、町全体の拠点となることを目指します。

（2）導入する主な機能
検討の結果、機能は次の４つに整理しています。
① 文化に関する機能
・東川の歴史や暮らしを学べる
・織田コレクションを活かした文化発信
② 学びに関する機能

・体験や活動を通じた学び
・人材育成や関係人口の創出
③ 価値創出（産業・経済）機能
・地域産業の発信
・新たな活動やビジネスの創出
④ コミュニティ機能
・町民の居場所
・日常的に集い、交流できる空間
重要なのは、これらを「個別の機能」としてではなく、相互につながる仕組みとして整備することです。

（3）空間の考え方
施設は大きく 2 つのエリアで構成します。
■文化創造エリア
→ 文化資源の保存・研究・発信
→ 町と世界をつなぐ役割
■地域交流エリア
→ 日常利用・交流・活動の場
→ 町民の居場所
※この 2 つが交わることで、文化と日常が交差し、学びや交流が生まれる空間をつくります。

（4）既存建物の活用
レンガ倉庫・石造倉庫などは原則保存・活用、不足する機能は新築で補完することで、「保存と更新のバランス」を重視します

（5）事業規模（現時点）
延床面積：約 4,000 ㎡
事業費：現時点の試算では約 45 億円規模となりますが、規模や整備内容の精査により、35～37 億円程度に抑えることを目標として検討を進めています。

４．町全体での位置づけ
東川町にはすでに、せんとぴゅあⅠ・Ⅱ、道草館、郷土館、キトウシの森、天人峡温泉など多様な役割を持つ拠点が存在しています。
本プロジェクトは、これらを置き換えるのではなく、つなぐ役割を担います。

５．今後の進め方
今後は、懇談会（第 6 回・第 7 回）、パブリックコメント、議会への説明を経て、基本構想の取りまとめ（令和 8 年度予定）を進めていきます。

６．町民の皆さまへ
本プロジェクトは、行政だけで進めるものではなく、町民の皆さまとともにつくるプロジェクトです。

引き続き、説明会や意見募集などを通じて、ご意見をいただきながら検討を進めてまいります。